ADHD の Summer Treatment Program : 15 年間の実践から学んだ子育て支援のコツ

山下 裕史朗

久留米大学医学部小児科学講座

注意欠如多動症（ADHD）のエビデンスに基づく治療法には行動療法と薬物療法がある。行動療法としての Parent Training（PT）は普及しつつあるが、子どもに行動療法を行なう Summer Treatment Program（STP）は、わが国では普及していない。北米以外で初の STP を福岡県久留米市で 2005 年から 15 年間実践して学んだ子育て支援のコツについてお話しする。STP は ADHD をもつ子どもと家族のための集中治療プログラムで、治療、研究、教育の 3 つの機能がある。STP では、エビデンスにもとづく効果的な治療法を提供するだけでなく、ADHD の理解に貢献する莫大な研究が STP の中で行われてきた。STP の目標は、問題解決スキル・ソーシャルスキル・学習スキルなどのスキル、指示に従う・課題遂行などの能力 Self esteem の改善である。くるめ STP は、夏休みの 1～2 週間、デイキャンプ形式で学校に通学し、医師・心理士・看護師・教師スタッフの指導のもと、研修を受けた大学生カウンセラーが子どもたちに直接指導する。子どもたちは、12 名のグループの中で、毎日 7 時間を学習センターやレクレーション活動で過ごし、グループとして行動することや友達づくり、おとなの適切なかかわり方を学ぶ。保護者は 5 日間の短期 PT を受ける。STP で用いられる主な手法は、ポイントシステムや Daily Report Card（DRC）、タイムアウトなどである。過去 15 回の STP 参加児は 326 名でドロップアウトは 0。STP 前後で認められる変化は、行動変容の指標としての加点ポイントの増加、減点の減少、DRC 目標達成率の改善、不注意、多動・衝動性症状の改善である。また、母親の POMS や養育レジリエンス尺度の改善も認められ、子育て支援にも大きな効果がある。STP は、ADHD をもつ子どもと家族の治療だけでなく、スタッフや学生の臨床研修・教育にも役立つプログラムである。子育て支援を担う次世代の人材育成にも大きな役割を担っている。

謝辞：NPO 法人くるめ STP、久留米市教育委員会および STP のご指導をいただいた Florida International University の William E Pelham 教授に深謝する。